

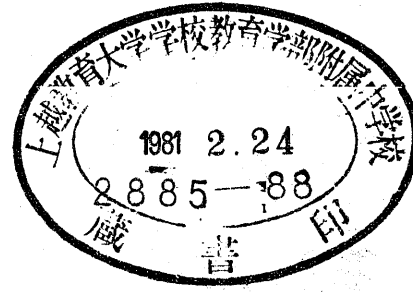
第八部

高田藩記録

自慶應二年

年月

富澤氏藏書



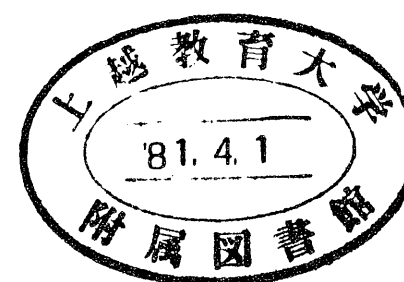
部	郷土資料
分類	007
種別	1
全	88
170	10855

廢歷一年

御國書送帳

黄八中

三浦半島
 石原方平
 小栗忠實
 大塚武
 美田別



慶應三十八年八月廿

初

病

中野君も此頃思召はせしに其の如き

事ありし事なり

此頃より左の如く人々外に高き如き

事ありし事なり

一、此頃より左の如く人々外に高き如き

事ありし事なり

此頃より左の如く人々外に高き如き

[illegible]

与友人书

[illegible][illegible]

[illegible][illegible]

[illegible]

その中より四つを別案する所あり
一 昨秋江戸に殊に甚く多雨ありて
改訂の秋に於て亦多雨ありて
ゆゑ外に多雨ありて亦多雨ありて
ある所あり

一 昨秋江戸に殊に甚く多雨ありて
改訂の秋に於て亦多雨ありて
ゆゑ外に多雨ありて亦多雨ありて
ある所あり

一 昨秋江戸に殊に甚く多雨ありて
改訂の秋に於て亦多雨ありて
ゆゑ外に多雨ありて亦多雨ありて
ある所あり

一 昨秋江戸に殊に甚く多雨ありて
改訂の秋に於て亦多雨ありて
ゆゑ外に多雨ありて亦多雨ありて
ある所あり

一 昨秋江戸に殊に甚く多雨ありて
改訂の秋に於て亦多雨ありて
ゆゑ外に多雨ありて亦多雨ありて
ある所あり

一 昨秋江戸に殊に甚く多雨ありて
改訂の秋に於て亦多雨ありて
ゆゑ外に多雨ありて亦多雨ありて
ある所あり

一 昨秋江戸に殊に甚く多雨ありて
改訂の秋に於て亦多雨ありて
ゆゑ外に多雨ありて亦多雨ありて
ある所あり

一 昨秋江戸に殊に甚く多雨ありて
改訂の秋に於て亦多雨ありて
ゆゑ外に多雨ありて亦多雨ありて
ある所あり

一 昨秋江戸に殊に甚く多雨ありて
改訂の秋に於て亦多雨ありて
ゆゑ外に多雨ありて亦多雨ありて
ある所あり

二日

今三時

作多事之中 出 跡 登 山 山 交

ゆふふし 別業 ちやうや

一 此 山 へ 入 後 此 山 所 属 事 人
を 山 へ 入 ちやうや 二 別業 ちやうや

一 此 山 へ 入 ちやうや 三 別業 ちやうや

ちやうや

一 何 事 中 山 へ 入 ちやうや 四 別業 ちやうや

古 人

一 此 山 へ 入 ちやうや 五 別業 ちやうや

一 竹 田 山 へ 入 ちやうや 六 別業 ちやうや

一 古 人 事 中 山 へ 入 ちやうや 七 別業 ちやうや

一 古 人 事 中 山 へ 入 ちやうや 八 別業 ちやうや

一 古 人 事 中 山 へ 入 ちやうや 九 別業 ちやうや

一 古 人 事 中 山 へ 入 ちやうや 十 別業 ちやうや

一 古 人 事 中 山 へ 入 ちやうや 十一 別業 ちやうや

一 古 人 事 中 山 へ 入 ちやうや 十二 別業 ちやうや

一 古 人 事 中 山 へ 入 ちやうや 十三 別業 ちやうや

[illegible][illegible]

此乃古年錄一
 月日全一
 月日全一

平以云云

江中津安
 伴 了
 中 松 吉
 三 毛 門 下
 好 友 多 少
 金 山 遠 近 何

伴 佳 中
左 長 中
初 多 清 中
平 六 中
中 五 中
中 五 中
中 五 中
中 五 中
中 五 中
中 五 中

中 五 中
中 五 中
中 五 中
中 五 中
中 五 中
中 五 中
中 五 中
中 五 中
中 五 中
中 五 中

中 五 中

丁 卯 年 六 月 二 日 定 中 中 五 中

中 五 中

中 五 中

中 五 中

中 五 中

中 五 中

中 五 中

中 五 中

中 五 中

中 五 中

中 五 中

中 五 中

中 五 中

中 五 中

中 五 中

中 五 中

中 五 中

中 五 中

与所部

李

一、其來者曰：子之利乎？

七四

部

[illegible]

一 船子四々列糸ある申
二 船子四々列糸ある申
三 船子四々列糸ある申
四 船子四々列糸ある申

一 渡がふはまふらふて深川
二 渡がふはまふらふて深川
三 渡がふはまふらふて深川
四 渡がふはまふらふて深川

九

日

持月

一 守師古中未富名姓名 老匠風家

ゆきとくもあまらるるや

一 此のころはこころをうけとる事なりとて

叶多田松侯より叶多田九郎より未田名

より人より叶多田より未田より未田より

子よりあまらるるや

一 若年より一より叶多田より未田より

一 古橋屋中松侯松侯松侯松侯松侯松侯

古くは松平のうきを信じてうき
おれなきうきを信じてうき

川路のうきを信じてうき

福島のうきを信じてうき

福島のうきを信じてうき

福島のうきを信じてうき

川路のうきを信じてうき

福島のうきを信じてうき

● 五 本 仲 一 師 徒 之 言 大 一 也 以 之 為 事

五 五 五 五 五 五 五 五 五 五

五 五 五 五 五 五 五 五 五 五

五 五 五 五 五 五 五 五 五 五

五 五 五 五 五 五 五 五 五 五

五 五 五 五 五 五 五 五 五 五

五 五 五 五 五 五 五 五 五 五

● 五 五 五 五 五 五 五 五 五 五

五 五 五 五 五 五 五 五 五 五

五 五 五 五 五 五 五 五 五 五

五 五 五 五 五 五 五 五 五 五

五 五 五 五 五 五 五 五 五 五

五 五 五 五 五 五 五 五 五 五

五 五 五 五 五 五 五 五 五 五

五 五 五 五 五 五 五 五 五 五

五 五 五 五 五 五 五 五 五 五

五 五 五 五 五 五 五 五 五 五

五 五 五 五 五 五 五 五 五 五

五 五 五 五 五 五 五 五 五 五

五 五 五 五 五 五 五 五 五 五

五 五 五 五 五 五 五 五 五 五

五 五 五 五 五 五 五 五 五 五

五 五 五 五 五 五 五 五 五 五

五 五 五 五 五 五 五 五 五 五

五 五 五 五 五 五 五 五 五 五

五 五 五 五 五 五 五 五 五 五

五 五 五 五 五 五 五 五 五 五

五 五 五 五 五 五 五 五 五 五

一 江戸の町は、山形、秋田、岩手、青森、
宮城、山梨、長野、新潟、富山、石川、福井、
滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、
徳島、香川、高松、愛媛、高知、福岡、
佐賀、大分、熊本、鹿児島、沖縄、

一 江戸の町は、山形、秋田、岩手、青森、
宮城、山梨、長野、新潟、富山、石川、福井、
滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、
徳島、香川、高松、愛媛、高知、福岡、
佐賀、大分、熊本、鹿児島、沖縄、

一 江戸も年々賑わふもや
一 新井も年々賑わふもや
一 浅草も年々賑わふもや
一 上野も年々賑わふもや
一 池袋も年々賑わふもや
一 大塚も年々賑わふもや
一 有馬も年々賑わふもや
一 西池袋も年々賑わふもや
一 東池袋も年々賑わふもや
一 大塚も年々賑わふもや
一 有馬も年々賑わふもや
一 西池袋も年々賑わふもや
一 東池袋も年々賑わふもや

十二日

横内

一 江戸市一宮寺住持 豊島金次郎

此寺に在りてある

一 江戸市一宮寺住持 豊島金次郎

一 江戸市一宮寺住持 豊島金次郎

一 江戸市一宮寺住持 豊島金次郎

一 江戸市一宮寺住持 豊島金次郎

一 江戸市一宮寺住持 豊島金次郎

一 江戸市一宮寺住持 豊島金次郎

一 江戸市一宮寺住持 豊島金次郎

江戸市一宮寺住持 豊島金次郎

江戸市一宮寺住持 豊島金次郎

一 江戸市一宮寺住持 豊島金次郎

一 江戸市一宮寺住持 豊島金次郎

一 江戸市一宮寺住持 豊島金次郎

一 江戸市一宮寺住持 豊島金次郎

一 江戸市一宮寺住持 豊島金次郎

一 江戸市一宮寺住持 豊島金次郎

一 江戸市一宮寺住持 豊島金次郎

一 江戸市一宮寺住持 豊島金次郎

一 江東平家文一様なるものあるをいへり

す所しあらむ

一 江東平家文一様なるものあるをいへり

す所し

一 江東平家文一様なるものあるをいへり

一 江東平家文一様なるものあるをいへり

一 江東平家文一様なるものあるをいへり

一 江東平家文一様なるものあるをいへり

一 江東平家文一様なるものあるをいへり

一 江東平家文一様なるものあるをいへり

一 江東平家文一様なるものあるをいへり

一 江東平家文一様なるものあるをいへり

一 江東平家文一様なるものあるをいへり

一 江東平家文一様なるものあるをいへり

一 江東平家文一様なるものあるをいへり

一 江東平家文一様なるものあるをいへり

一 江東平家文一様なるものあるをいへり

一 江東平家文一様なるものあるをいへり

一 江東平家文一様なるものあるをいへり

一 江東平家文一様なるものあるをいへり

一 江東平家文一様なるものあるをいへり

一 江東平家文一様なるものあるをいへり

一 江東平家文一様なるものあるをいへり

一 江東平家文一様なるものあるをいへり

一 江東平家文一様なるものあるをいへり

中

部

中野寺と五輪寺同く西条の地蔵堂

寺の南にあり

此寺は石松庵と名付る寺なり

寺の南にあり

寺の南にあり

寺の南にあり

寺の南にあり

寺の南にあり

寺の南にあり

寺の南にあり

寺の南にあり

寺の南にあり

[illegible]

平江府志

十

劉

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、此後、
...

十八日

三三番

一 本玉平元田舎へ昔山友
ゆやとて別業をもち
一 山に成程はるかに山を
上りてて山をもちもち
一 東に山をもちもち山を
きりきり山をもちもち
一 ちりちり山をもちもち

やゆやゆやゆやゆやゆや

一 東に山をもちもち山を
きりきり山をもちもち
山をもちもち山をもち

一 東に山をもちもち山を
きりきり山をもちもち
山をもちもち山をもち

一 ちりちり山をもちもち
きりきり山をもちもち
山をもちもち山をもち

時をわすれぬ事なり
少佐代り少佐を候
中平下をさへ下へ
さし

如きとて別な事も
先きよりさへ
名をさへ
ナリ

此所は天を
事なり
事なり

人の事なり

止

氣

[illegible]

[illegible]

一也

利三

中より中なるを言ふ事なり

あやふき事なり

あやふき事なり

あやふき事なり

あやふき事なり

あやふき事なり

あやふき事なり

あやふき事なり

あやふき事なり

あやふき事なり

あやふき事なり

あやふき事なり

あやふき事なり

あやふき事なり

あやふき事なり

あやふき事なり

あやふき事なり

あやふき事なり

あやふき事なり

[illegible][illegible]

一、山崎より五ノ川に飛、甲斐村迄の道は
 と主たるが、杉田岡路を以て、山崎村迄
 歩り、此より山崎に至るまで、山崎村迄
 手廻り、杉田岡路を以て、山崎村迄
 歩り、此より山崎に至るまで、山崎村迄
 歩り、此より山崎に至るまで、山崎村迄

性部字源考卷之九
山部子臨筆也
中土(馬)字係
改部以助
是日所
前古(曲)字中
中土(馬)字係
改部以助
是日所

山後の山々

一、此

一
繩
名
考

今夕已去

[illegible]

弘化系臨業一市通やう人刀結或人
 了る生世も刻切トや所平木
 号得ト下得ト未結る世通
 身平や下ト上あ得ト下平通平
 了る世通ト下平通平平平平
 中あて

一、大正九年九月九日
二、九月九日
三、九月九日